



ISSUE : 上半期のご報告、下半期の行事予定

現代教育研究所

所員・研究員懇親会



新学期の始まりに合わせて、4月3日(日)に第二回所員・研究員懇談会が開かれました。年に一度、所員・研究員が一堂に会する場です。

押谷所長から研究所の概要と平成27年度の活動についての報告があり、2月のフォーラムの内容や紀要の発行などが紹介されました。

続いて、各研究グループから今年度の研究活動の予定が発表されました。その中で、現代教育研究部門に新たに立ち上げることとなった「情報メディア教育研究グループ」の駒谷リーダーが、グループの目的や活動の内容の紹介を行いました。

最後にグループ毎の懇談を行い2時間あまりの会を閉じました。

実質的な2年目を迎えるに当たり、より充実した活動を行うよう心を新たにす場となりました。



グループイベント活動報告 GROUP EVENT REPORT

6月2日久米ナナ子先生ゲスト講師



6月2日(木)、初等科教育学科「表現指導法演習」の授業で演劇の要素を取り入れた「表現ワークショップ」をおこないました。

学生達には今まで当たりまえに思っていた「感じる」という感覚を幾つかの演劇エクササイズを通して再認識してもらいました。そして、人が何かを伝えたいと思うとき、感情が湧き、その気持ちが声になり言葉となって身体の動きへとつながっていくことも体感してもらいました。

授業の終盤では学生達はグループごとに分かれ、それぞれ表現したものを一つの物語に発展させ、実際に「演じる」ということにも挑戦いたしました。(久米)

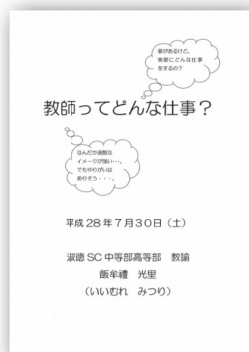
7月9日座談会



研究員の松本祐也先生(岩倉高校 地歴科)と原匠先生(足立学園中学高等学校 理科)のお二人に来て頂き、教職志望の学生との座談会を開きました。昨年度末(2016年2月)に続いて2回目となります。

前半はお二人から、教師の生活や仕事についてお話を頂き、教師の仕事は授業だけではなく、生徒の生活全般に関わるものであること、学校は集団での教育の場であるけれども個別の対応も重要であることなどが具体的に話されました。後半は自由に質疑応答、意見交換を行い、教師になった理由や「仕事のつらさ」など本音でのお話を伺えました。参加者は多くありませんでしたが、教師という仕事についてじっくりとお話を聞くことができた大変貴重な2時間となりました。(友野)

7月30日飯牟禮光里先生ゲスト講師

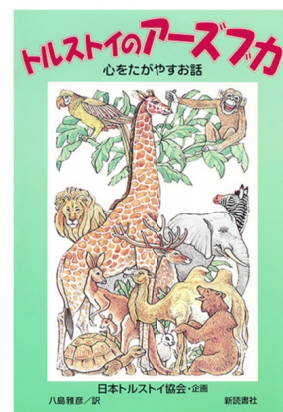


7月30日(土)の前期最後の教育原理(中高)の授業で、研究員の飯牟禮光里先生(淑徳SC中学部・高等部 英語)をゲスト講師にお招きしお話を伺いました。受講生は1年生が多く、これから進路を考えることとなりますが、教職について少しでも具体的なイメージが持てることを目的として、このような機会を設けました。

お話では、英語の教師という職を選んだ経緯、実際に教師になった道、教師の一日の生活、教師の仕事、教師として必要な力など多岐にわたる内容に触れられました。教師になられて4年目ですが、共学校と女子校(現任教)の経験を踏まえて、私学とは?、共学と別学の違いは?という点についても話してくださいました。

レジュメには「教師には…人に何かを伝える、人を動かす能力が求められます。」「はじめから教師としての能力が身についている人はいません。一から学ぶことにはずかしさやためらいを感じる必要はありません。」というメッセージがあり、受講生にとって大変参考になり、刺激を受けたひとときとなりました。(友野)

「大人たちが読んだ『トルストイのアズブカ』」



トルストイ協会と昭和女子大学の有志が「トルストイ勉強会」を立ち上げ、ほぼ月1回のペースで『トルストイのアズブカ』の輪読を続けています。その中で、話し合った内容を一話ごとにまとめ、上記のタイトルでWEBへの掲載を始めました。

http://iome.jp/tolstoy/tolstoy_pdf/

このURLは、検索エンジンから、昭和女子大学→大学・大学院→現代教育研究所→トルストイ教育グループ、と進んでいただくことができます。

全126話のうち、掲載は50話まで。全部の輪読と掲載を終えるには、まだ1年余りかかると考えられます。出版化も実現できたら、と夢を抱いています。

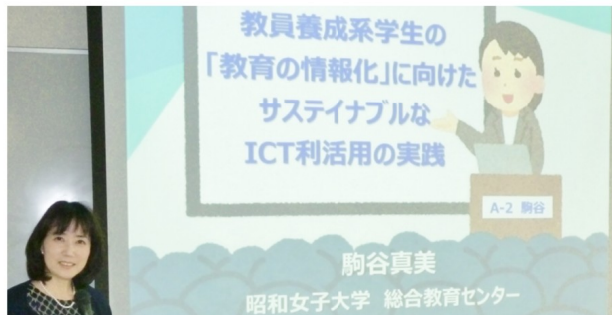
インターネットで読んでくださり、ご意見などを聞かせていただければ幸いです。

出張報告 RESEARCH TRIP REPORT



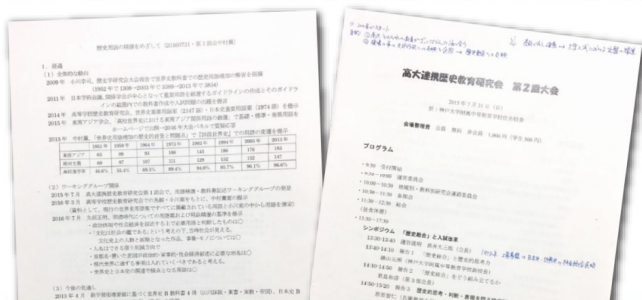
表現教育グループ 水戸芸術館探訪

5月8日、地域の教育活動の拠点となっているアート施設を視察し、情報収集する活動の一環として、茨城県水戸市の水戸芸術館を訪れました。メンバーは表現教育グループの所員・研究員5名で、水戸芸術館現代美術ギャラリーを見学した後、芸術館が未就学児から高齢者までを対象に様々な教育プログラムを継続開催している情報を収集しました。当施設が美術・音楽・上演芸術などアート全般にわたって質の高い活動を続けていることに感銘を受け、表現教育について多くの有益な情報を得ることができました。表現教育グループでは、今後も地域に開かれたアート教育のあり方について精力的に情報収集活動が続けていく予定です。(永岡)



所員 駒谷真美先生 情報メディア研究グループ 活動開始

情報メディア教育の最新情報を得るために、NEW EDUCATION EXPO 2016やMIL(メディア情報リテラシー)の世界的権威であるRenee Hobbs教授(University of Rhode Island USA)のワークショップ「Mind Over Media」に参加しました。加えて、本年度の活動目標であるMIL教育実践の可視化のため、私立大学情報教育協会「平成28年度ICT利用による教育改善研究発表会」で、「教員養成系学生の「教育の情報化」に向けたサステナブルなICT利活用の実践」について口頭発表しました。



研究員 松本祐也先生 7/31高大連携歴史教育研究会第2回大会に参加して

本研究会は2015年5月に発足し、歴史教育に関わる高校と大学教員などの交流を通して歴史教育の内容の向上と制度改革の提案を作成することなどを目的としています。パラダイムシフトが進む現代社会において、「歴史教育」を通じて何を伝え、何を考えさせるのか。また、高校教育と大学入試、大学教育の接続はさらに深まっていくと予想されるが、具体的に「歴史教育」はどのように関わっていくべきなのかをテーマに議論しました。今後も理念と実践の交差を目指し、高校というフィールドで生かしながら議論に参加していきたいと思ひます。



理科教育グループ 日本理科教育学会

理科グループは平成28年8月5日～7日に日本理科教育学会第66回全国大会(信州大)で口頭発表を行いました。タイトルは、①科学的探究と科学読み物の接続 ②授業づくりを視野に入れた理科実技研修の試み ③自己肯定感を高める理科学習指導の工夫 ④東京における自然観察の学習 ⑤八丈島のフィールドを生かした理科教育の可能性 ⑥認知的/社会文脈の統合の視点からの自然認識の基礎の育成など、全11本。なお、11月19日(土)15時から昭和女子大学において、学会発表に関する意見交換と来年度の研究に向けたテーマの検討を行います。(白敷)



所員 友野清文先生 日田・咸宜園を訪ねて

8月28日、以前から訪れてみたいと思っていて機会がなかった咸宜園に行ってきました。史跡として建物の一部が残っていて、敷地内に研究センターが置かれています。広瀬淡窓が幕末に創設し、明治30年まで70年間存続しました。福岡空港から高速バスで1時間半あまり、決して交通の便が良いところではありませんが、教育の場としては好立地かもしれません。入門にあたっての「三奪法」(身分・学歴・年齢を捨てて平等になる)、門下生が塾や寮の運営をする「職任」制など、独自の理念と方式を採っていました。研究センターには小学校が調べた展示もあり、郷土の文化遺産として現在も活用されていることが分かりました。



所員 金子朝子先生 Martha's Vineyardを訪ねて

9月11日、昭和ボストンからマサチューセッツ州デュークス郡の小さな島、Marth's Vineyardを訪ねました。言語学者ウィリアム・ラボフは、社会言語学の代表的な研究となった方言変遷に関する研究のデータをここで収集しました。ケネディー、クリントン、オバマと代々のアメリカ大統領も訪れる避暑地Marth's Vineyardのエドガータウンやヴィニヤード・ハイブンは『ニューイングランド 安野光雄のスケッチ』(1994、日本航空文化事業センター)に収められています。その場所を訪ね、安野のスケッチを題材にした英語教材開発のための資料集めをしました。

研究グループ活動予定 GROUP ACTIVITY PLANS

現代教育研究所
フォーラム**2016年度 現代教育研究所 フォーラム**
待ったなし！ ICT活用による授業改革～未来を拓く“学びの場”を創る

本研究所では、2016年度フォーラムを以下の内容で開催予定です。
「教育の情報化」に特化した内容です。現場の先生方のご参加をお待ちしております！

- 日時：2017年2月11日（土・祝）10:30～16:30
- 場所：昭和女子大学 コスモスホール（80年館西棟6階）
- ゲスト：堀田龍也氏（東北大学大学院 情報科学研究科 教授）
新津勝二氏（文部科学省 生涯学習政策局 情報教育課 情報教育振興室長）
ICTを授業で実践をされている小学校・中学校の先生方
- 協力：株式会社内田洋行・株式会社 日経BP 他

第1部（第1部10:30～12:00）

ICT授業を実践されている小学校・中学校の先生方による最新報告

第2部（第2部13:00～16:30）

堀田氏と新津氏の基調講演 + シンポジウム

- 申込方法： 当研究所ウェブサイトにて12月初旬から受付開始予定 <http://iome.jp/>

★2月12日（日）内田洋行本社ショールームにてFUTURE CLASS ROOM体験＆見学会開催予定
（見学希望者はフォーラム申込時に同時申込）

参加
無料英語教育グループ
ミニ・アクティビティ集②**ミニアクティビティ集②を近日出版！**
「英語で知識を学ぶ」活動に是非ご活用ください！

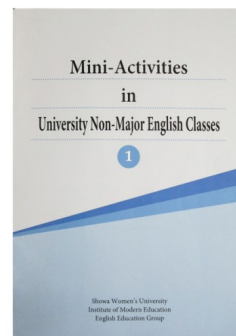
昨年度に出版されたミニアクティビティ集①の続編として、今年度末にミニアクティビティ集②の出版が予定されています。①は大学生対象であるのに対し、②は小・中・高・大学生、そして社会人を含めた、幅広い層を対象としたアクティビティを提案します。

内容は昨年同様、4技能を取り入れたアクティビティを初級から上級までの難易度別に分けて掲載します。ご応募いただいた原稿は、日本語・英文の校正を行い、最終仕上げの段階に入りました。

授業の中でわずかな時間を活用し、身体を動かしながら行えるグループ活動では、学習者の興味・関心を引きつけるだけでなく、学習動機や集中力を高める効果が期待できます。

また、反復練習にて同じ語彙や表現を実際に何度も使用することで、学習内容の定着を目指します。教員主導の受動的な学習から、学習者間で自らの意見を表現するなど、学習者主導型のコミュニケーション活動を取り入れた授業形態が増えることを願います。

生徒自らが考え、行動する活動の具体案として、ぜひ本書をご活用ください。



（昨年度出版のミニアクティビティ集①）

上半期は各グループ・先生方による研究活動が活発であったという印象でした。他県の研究会への参加や研究発表、授業終了後には勉強会を開催し、休日にも著名な方々を招いて講演会を主催されるなど、忙しい時間を有効的に使われる先生方はパワフルだと感じました。

下半期は2月11日（土）現代教育研究所フォーラムに向けての準備がメインとなる予定です。多くの参加者を期待しています。

現代教育研究所

所在地：大学2号館東棟2T01B

開所時間：月・水・金 10:00～16:00

現代教育研究所
Institute of Modern Education